

新宮山彦ぐるーぷ第1871回―2

## ゴールデンウィーク連休中の行仙宿当番と旧通信道改修作業

◇実施日：平成28年05月01日(日)～03日(火)

5月01日(日) 快晴

◇参加者：乾 克己、青木宏充

2名。

笠捨山捲き道(旧通信道)改修作業班下山後、行仙宿当番は乾氏のみであったが、急遽、青木氏が連泊となり、来宿舎の対応をした。

来宿者は、13名(内女性1名、トレラン4名)。テント1名、

(乾氏の報告)

5月02日(月) 晴れ

◇参加者：乾 克己、山上皓一郎、山上昌子、生熊敏男、

東 敬子、中前 偉。

6名。

5月2日は午前9時30分に熊野川行政局に集合し、中前車に乗り合わせて向かうことになっていた。東さんは9時前に到着。

新宮組の山上さん夫妻、生熊さんも9時25分ごろ到着したので、中前車に荷物を積み替えて出発準備するも、缶ビール2ケース、食料などを積み込むとラゲージスペースが満杯になってしまった。仕方なく予備タイヤを行政局地下駐車場の隅に降ろしてザックや背負子のスペースを確保した。

奥瀬道路(Ⅱ期)の開通により、狹隘でカーブの多い蟻越峠越えから解放され、大幅に時間短縮。安全性も増してストレスが激減したとドライバーらの評判だ。

5人が熊野川行政局で合流してから1時間余りで補給路鉄階段に到着。荷物を降ろし、中前はモノレールデポ地へ。手順書を確認しながら慎重にエンジンを開始してバックで林道に下ると、青木さんが手を振って迎えてくれた。

オニヤンマのフィギアのお礼を言った後、青木さんにも手伝ってもらって荷台に荷物を積み込み、中前と山上さんはモノレールに乗車。約8分で終点到着する。

ここからは人力での荷揚げとなるが、モノレールが有るのと無いのでは雲泥の差。それぞれ荷物を分担して、中前と東(あずま)さんは2往復し、12時40分に荷揚げ終了。小屋の東側では乾さんがカーペットと管理棟の毛布を干してくれていた。



乾さん差入れの、天ぷらの材料となるコシアブラやヤハズアジサイ、タラノメなどの下ごしらえ(袴取り)をしながら昼食の準備をする。13時10分、午後の作業分担を話しながら昼食を始めた。

この頃、男性1名、女性2名のパーティーが早々と入宿。高松市からいらしたそうで、女性一人の疲労が激しく、また、翌日の天気も下り坂の予報の為、ここに泊まって明日、白谷トンネルからタクシーで帰ることにしたそうである。一人の女性は高松熊野

修験の会の松岡さんと面識があるとの事であった。



コシアブラ袴を取り去る(乾氏提供) アオサ入り

昼食を終え、高松組2人と東さんは水場へ。東さんは初めての  
水場だが、10リッターのポリタンを担いだ。

小屋に残る山上さん夫妻と東さんには、毛布の回収等をお願い  
し、乾さん、生熊さん、中前の3人は、大ハンマー、バチ鋏、斧、  
鋸を担いで旧通信道の点検整備に向かった。

14時10分作業開始。谷側に傾き、浮いた杭を引き寄せハン  
マーで打つ。杭が朽ちている場合は頑丈そうな倒木を見つけては  
鋸で適当な長さに切り、斧で先を付けて打ち込んだ。

また、土止めの柵と登山道路面に隙間がある場合は砕けた岩を拾  
い集めて塞ぎ、水が流れないようにした。

汗をかき始めると「目まじない」が顔の周りを飛び回って超不  
快。鬱陶しくてたまらん。

ついには乾さんが気管に虫を吸い込み、激しく咳き込んで作業中  
断。その後は顔にタオルを巻いて虫対策。斧を持って歩く怪しい  
姿を見て身構えてしまった。



旧通信道の改修作業

覆面をしての作業

16時作業を終えて小屋に戻る。投宿者は2名増えて5名にな  
っていた。まだ外に干してあったカーペットを回収して床に敷く  
などしているうちに管理等ではごちそうが並べられ、山上さんの  
奥さん、東さんが天ぷらを揚げている。投宿の5名と幕営のカッ  
プルに揚げたての天ぷらを振舞い、我々も夕食の宴に入った。 2



山菜のてんぷら

豆ご飯

大いに盛り上がったが、最後は豆ご飯で。

山上さん夫妻と東さんは管理等に、乾さんは行者堂に、中前は  
行仙小屋にそれぞれ分宿することになった。

宿泊者は、5名(内女性2名)。テント2名(内女性1名)。

5月03日(火) 曇りのち小雨

◇参加者：乾 克己、山上皓一郎、山上昌子、生熊敏男、

東 敬子、中前 偉。

6名。

7時に生熊さんがストーブに火を入れ、オキで干物を焼いてくださった。昨夜の天ぷらを電子レンジで温め、生野菜のサラダ、おみそ汁など、これまた豪華な朝食を頂く。



ストーブ前で干物焼く 盛沢山の朝食

下山前に記念撮影

8時30分、小屋を出発して通信道へ向かう。作業内容は1日目と同じだが、現場への距離は長くなっている。11時で作業を終え小屋に向かう。

小屋では山上さんがトイレ掃除、東さんは汲み取り作業をしてくれたそうだ。

時折、ぽつりと雨が落ちてくるがまだまだ持ちそう。この日も天気を心配して早々と3人が入宿。うち兵庫県からやってきた若

い男性がお金の持ち合わせがないとのこと。後日送金していただくよう沖崎さんの住所などを教える。それにしても下山後のバス移動はどうするのだろうか。「ピタパは使えないのかあ〜」とつぶやいていた。

昼食はカレーライス、みそ汁、イワシの干物など。

あとは下山するだけ。東さんに帰りの運転をお願いしてビールを1本飲んでしまった。

14時10分、全員が下山して帰路につく。熊野川行政局まで1時間余りで到着し、解散となった。食べてばかりのレポートになってしまいました(▽^)

※午後1時30分時点の宿泊者は、小屋 3名。内1名は志納金2,000円 沖崎氏送り。

以上、復命いたします

(報告者 中前)